

趣旨文 **大会主題「自ら多様な他者と協働し、学びを深めていく教育」**

現代は変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代であり、先行き不透明で将来の予測が困難な未来となっている。また、グローバル化や情報技術が社会のあらゆる領域に浸透することによってもたらされる変革、生成AIやロボットの発達により、問題発見力、的確な予測、革新性といった能力が今後一層求められることが予測されている。

特に生成AIをはじめデジタル技術が飛躍的に発展する中、近い将来、未来社会を生きる子供たちには新たな情報技術を使いこなしていく能力を育てていくことが求められる。社会のデジタル化がもたらしている負の側面への対応を含む情報活用能力を各教科等における探究的な学びを支える基盤と位置付け、抜本的な向上を図ることが喫緊の課題となっている。

こうした時代にあっては、子供たちが自立した学習者として、自ら多様な他者と協働し自分に合った学び方を身に付け、学びを深めていくことが重要である。

また、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、自ら未来を切り拓いていく力や意識を高めていく必要がある。ものごとを成し遂げる力などは、どのような時代であっても変わらず重要である。

さらに、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓いていくことも大切である。自己の興味・関心やキャリア形成と関連付けて生涯にわたって学び続けていく力を身に付けていく必要がある。

これらの資質・能力を育むためには、ICTも適切に活用しつつ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得及び思考力、判断力、表現力等や探究力、粘り強く学習に取り組む態度等の育成が欠かせない。

それには誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現することや自らの学びに向けた主体的な活動への意欲をもたせることが大切である。

しかしながら、学校教育の現状を見ると、学ぶ意欲やチャレンジ精神、柔軟で豊かな感性や思いやりの心の育成など、人間関係の在り方や自己肯定感・自己有用感の高揚に課題が生じている。

私たち学校教育に携わる者は、人間性を涵養する重要

性を再認識して確かな子供理解を深め、探究・体験的な活動を重視した、主体的・対話的で深い学びを充実させる教育を積極的に推進することが大切である。

幼稚園・こども園では、幼児は安心感を基盤に能動的に動き出していく過程で、他者と関わり自己の世界を広げていく。夢中になって遊びを進めていく中で、より楽しくしたいという思いが新たなめあてにつながる経験になるよう、遊びの世界を育てていく。

小学校では、各教科等において多様な他者と協働的に探究し、自らの学びを深めていく学習活動が展開できる力等を育成する。また、教育活動全体で豊かな感性や他者への思いやり、多様性を受容する力等の育成に努める。さらに、社会体験活動を通じて主体的に社会の形成に参画する意欲や態度を養う。

中学校では、探究的な学びや体験活動を充実させるとともに、主体的・対話的で、深い学びの視点からの授業改善を推進する。これらの取組を通して、生徒が自ら学びを選択し、生涯にわたって能動的に学び続ける力の育成を目指す。また、生徒が自己肯定感や自己有用感を獲得できるよう、多様な他者との対話や協働の機会を充実させ、豊かな人生を主体的に切り拓く生徒を育てる。

高等学校では、多様な教育ニーズに応じた工夫ある教育課程の実施を行い、生涯にわたって学び続ける学習者として自立した生徒を育成する。そのために自己肯定感を育み、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行い、デジタルリテラシーの向上、SDGsの対応を含めた探究活動を通し生徒の育成を図る。

特別支援学校では、それぞれの障害の状態や特性に最適化した多様な学びを促進させ、相手を意識し、気持ちや考えを伝えていく中で、必要な支援を受けながら自ら考え、判断し、課題を解決し行動できる力を育成する。地域の中で多様な支援者と協働することを通して、自らの学びを深め、生きがいのある自立や社会参加につなげていく。

家庭・地域社会では、家族の絆や地域コミュニティの基盤づくりに努めるとともに、学校と相互に連携・協働して子供たちの成長を支える環境を整備する。また、多様な人材や社会教育施設、企業等の地域資源の積極的な活用を通して、実社会における課題解決学習や協働的な活動により、自ら考え判断する学びの機会を充実する。